

# ＜今週のお宝盤＞

受付期限：2026年3月11日

第9093番 レオニード・コーガンのパガニーニ



税込33000円

英EMI/33CX1562/1955年録音/モノラル/G

パガニーニ ヴァイオリン協奏曲第1番、カンタービレ 二長調\*

コーガン(vn)/パリ音楽院管/ブリュック、\*ミトニク

仙台丸善の入口に貼ってあった演奏会チラシで見掛けてコーガンの名を初めて知った。私は高校2年生、彼の二度目の来日の時だった。最初に買ったレコードのことは覚えていないが、このレコードは国内盤で聴いていただろう。パガニーニはコーガンに良く似合う。コーガンは甘い音色も持っているが、唖然とするような切り口の強さに多くの人は引かれる。それを背景に技巧を駆使する姿勢に聴く者は惹かれる。そのような演奏を聴いていると異次元からの強い力を前に身動きできなくなることもある。そもそもパガニーニとはそうしたヴァイオリニストだったのかも知れない。ことによるとコーガンにはパガニーニが乗り移っていたのかも知れない。演奏に全靈を傾けると言うのはそういうことである。指揮者のブリュックもこうした感覚を持っている。彼は2年後にプロコフィエフの「炎の天使」の録音をする。何かパガニーニとの共通点を感じる。終楽章は一つ一つの音の粒がそろって跳ねるように飛び回る。モノラル末期の録音の凄さも手伝って、これは永遠にパガニーニ演奏の記念碑とも言える。(山田)

第9094番 クラウディオ・アラウの『皇帝』



税込16500円

英EMI/SAX 2297/1958年録音/ステレオ/G

ベートーヴェン ピアノ協奏曲第5番『皇帝』 アラウ(p)/フィルハーモニア管/ガリエラ

例えはアルゲリッチがアルゼンチン出身であることを云々する者はいないだろう。だが、アラウにはチリ出身という身の上がしばらく付きまとった。彼らはアラウの演奏にはアイデンティティーの如くにドイツの血が流れているのを知らない。若い頃の情熱的な演奏を聴けば間違った考えは払拭される。10歳になる前からリストの高弟に叩き込まれた若者が、技術において、深みにおいて、もはやドイツ人以上に古典派やロマン派に精通していたのである。ベートーヴェン演奏家としてアラウを避けて通る訳にはいかない。彼はベートーヴェンを技術で勝負しない。内面を聴かせるのである。ピアノ・ソナタにおいては、理解できぬほど遅いテンポを取ることがあるが、その世界に入り込むことのできる者は真意をくみ取ることができる。アラウの生み出す音楽には「効果的に弾く」という言葉ほど無意味なものはない。聴く者に努力を求める稀有の演奏家がアラウなのかもしれない。だが、渾身の力を込めてアラウが提示してくれた音楽に浸った末に、途方もなく輝かしい世界を見つけた者は幸福だ。音楽とはそういうものだ、自分の世界に閉じこもらず、一見理解しがたい中に輝きを見出した時ほど満足できることは無い。このレコードは並の『皇帝協奏曲』ではない。是非深みに挑戦して欲しい。(山田)